

基地対策特別委員会 行政視察報告（7/27 築城基地・7/28 芦屋基地）

令和5年8月2日

能美市議長 田中 策次郎 様

能美市議会 基地対策特別委員会
委員長 杉田 隆一

行政視察報告

期 間 令和5年7月27日(木)～28日(金)

視察先 福岡県 築城基地(27日)、芦屋基地(28日)

参加者 委員長:杉田隆一、副委員長:卯野修三、委員:東 正幸・山本 悟
議事調査課長 杉林功邦

目的 ロシアのウクライナ侵攻以来、アジアでも、東シナ海・日本海での中国、ロシア、北朝鮮の動きに活発化がみられ、私共の地元の小松基地と同じく日本海側に位置する福岡県内の航空自衛隊の基地を視察し、実態を把握し、今後の航空自衛隊の動きを日本海側の国防の観点から研修をするため。

築城基地 福岡県築上郡築上町西八田

第8航空団が配置されている航空自衛隊の基地として、行橋市・みやこ町にまたがり、滑走路は西南西から東北東に向かって延び、一部が周防灘に300m突き出している。

在日米軍の再編に伴う、アメリカ軍普天間基地の有事展開拠点機能の移転先の一つであり、滑走路を普天間基地と同じ2700mにすることが計画されている。毎年11月～12月の日曜日には、航空祭が開催され、ブルーインパルスBlue Impulseの展示飛行が目玉になっている。又、調べてみると、築上町内を放送エリアとするコミュニティFM局に2010年から自衛隊員が制作するラジオ番組を持っている。

築城基地は、周防灘に突き出た滑走路を持ち、第8航空団として、近年、スクランブル発進が増えていると聞き、地元小松基地と同様に東シナ海・日本海、そして日本を守る要衝であることを確認できた。又、沖縄普天間基地からの米軍航空機が今後、移転あるいは駐機するための設備の着工準備や滑走路の300m延長などを進めるとのことでした。様々な問題があると拝察するが、是非、国は説明責任を果たしていただき、地域住民の方々にご理解いただくことを祈念した。

基地司令とも、ご多忙のなか、懇談することが出来、日本取り巻く厳しい環境のお話をいただいただけに、あらためて、現在の日本の安全安心が保たれているのは、自衛隊員の皆さんのおかげと感じた。

所感 昨年もスクランブル発進が急激な勢いで増え、東シナ海、日本海へ飛び立っていると聞き、いまさらながら、日本の廻りは一触即発の状況と拝察した。

前述のとおり、今後、アメリカ軍の駐機基地の計画と滑走路延伸計画で、周防灘にさらに延びるということで、地元と丁寧に対応していくと聞き、大変ではあるが、地元へのご理解、ご協力を求め、日本の国防のためにも前進していくことを祈った。

尚、私共、能美市にとって、一部地域で苦慮している騒音問題を参考にしたかったが、築城基地では、周防灘に向かったの発着も多く、大きな問題にはなっていないとのことでしたが、前述のラジオ番組制作など、日頃から情報公開や近隣住民との交流の一環としての地道な活動が実を結んでいるのではとも感じた。

最後に、私共も、能美市の近くに小松基地を抱えているだけに、小松基地があるおかげで、専守防衛になっていることを市民の皆様には、継続的に丁寧に伝えていく活動をしていくべきと感じた。

芦屋基地 福岡県遠賀郡芦屋町大字芦屋1455-1

第3術科学校が配置されている航空自衛隊の基地で、遠賀郡岡垣町にまたがっている。教育部隊第13飛行教育団(T-4)を配置し、基地の面積は東京ドーム92個分の430万㎡の広さがあり、航空自衛隊では3番目の広さを有し、11個の部隊が所在し、滑走路の長さは主に、教育部隊用ということで1640m。T-4中等機の配置とペトリオット地对空誘導弾の配置が特徴である。

芦屋基地は、戦闘機の基地というより、第3術科学校もあり、T-4型機(レッド・ドルフィン)操縦教育の基地であります。芦屋基地の穏やかな環境とは異なり、昨年末に策定された国家安全保障戦略に示されたとおり、わが国は、戦後、最も厳しく複雑な環境に直面しており、この芦屋基地での教育は、組織の基礎は人であるとの認識のもと、大空の守りの第一線に立ち、困難な課題に果敢にチャレンジしていける逞しいパイロットの養成に努めているとのことでした。

修了証は、決して学力だけでなく、適切な判断が出来るかが決め手であると話されていました。3割は不合格とのこと、極めて厳しいものであり、いまさらながら防空のために命を懸けて 隊員を最終的に選別、養成されていると感じた。

所感 航空自衛隊の操縦者のほとんどは芦屋基地で操縦教育を受けており、半年間の勤務を終え、見事、修了された学生は眼光も鋭く、凛々しい顔になり、戦闘機操縦者に一歩ずつ、近づいていくとのこと。ただし、なかには、適正が合わず、不合格の生徒も多く、新しい人生への苦渋の声かけのエールを贈る場合もあり、国防を考えての教官としての仕事をしていると聞き、背筋が伸びました。

又、地对空誘導弾のペトリオットも見学させていただき、練習はアメリカのニューメキシコ州とのこと、いざまさかのためにも、厳しい訓練をお願いしたいと感じた。

まとめ 能美市にも、小中高の方々のなかで、将来、自衛隊に勤めたい人もおられると思われるので、今回の基地視察の体験を活かすことができれば幸甚であります。

次回に全国の航空自衛隊基地との研修の機会を持てるのであれば、その基地のある自治体の議会の基地対策委員会との意見交換会をぜひ実施して、様々な課題、展望について、意見交換をしたいと思った。今後とも、日本海の要衝である地元の航空自衛隊小松基地を温かく見守ってまいります。

能美市議会の基地対策特別委員会としては、今後も機会をつくり、県外基地の視察内容の報告、そして、なによりも地元小松基地の活動実績を市内の方々に広く、深く、伝えることで、防衛の大切さ、小松基地の存在意義を、もっと、もっと、伝えていきたい。